

# 情熱とつながりの台湾1周

安部 良

## 語り継がれる八田與一の偉業

5月8日 (先月号からの続きです)

高雄を出て台南へむかった時、大きな問題を抱えていました。先月号の通り、各地に訪問依頼を送りアポイントをとっていったのですが、台南市と雲林縣がとれていませんでした。台南市はもう目の前。訪問がうまくいなくても、有意義に時間を過ごそうと考えていました。前日、野中所長と有川真由美さんから、呉鳳科技大学蔡教授（以下、蔡先生）のお話がでていて会ってみたいと思っていました。

有川さんが蔡先生との間を取り持ってください、蔡先生は急だったにも関わらず会ってくださる事に。快く台南市内にあるお兄様のテコンドー道場を連れて行ってくださいました。夜10時ぐらいでしたが、子供たちは元気いっぱい。この道場は世界大会で表彰台へあがるような生徒がいる名門。表彰式の写真にはオリンピック委員会旗が使われており、子供たちの迫力とは別に、台湾の国際事情を垣間見ました。

5月9日

あきらめかけていた台南市ですが、蔡先生のおちから添えて台南市国際関係処の張さんにお会いするため市政府へ。市政府玄関に着き、張さんをお待ちしていたら先にカメラを持った記者の方々に玄関でいきなり囲まれて・・・僕は芸能人でも有名スポーツ選手でもないのにどうしたんだ？状態。ちょうど八田與一氏没後70年で「金沢WEEK IN 台南」が行われていました。八田與一の生まれ故郷の金沢から150人の訪問団がきており、その夜晚餐会まで開かれるというタイミ

ング。狙っていたわけではなく、たまたまなのですが、そうした経緯もあり「謝台湾」の自転車が注目されました。そして夜はその晚餐会の会場にお邪魔して、姉妹都市の仙台市へ直接、義援金を届けに行いかれた頼台南市長はじめ、みなさまからメッセージを書いていただきました。



1日ずっとサポートして下さった張さん

5月10日

午後4時、太保市でお約束した嘉義縣政府。その前に八田與一公園にも行きたかったので、朝早く台南を出発。

今日までも語り継がれ、現在の台日関係の礎になった八田與一の功績、烏山頭ダム。きれいに公園としても整備されていて、八田氏の銅像、復元された邸宅や4月に植樹された「絆の桜」もありました。八田像の前で写真を撮っていたら、大型バスからぞろぞろと学生たちが降りてきました。社会科見学なのでしょう、先生かガイドか大人から説明を聞いています。日本以外の地で、日本人の功績がこうして教育にまでなっているのは、日本人の誇りです。



八田與一像の前で。手にしているのは台南市でもらった八田氏のポスター。

ちょっと変わった場所にある嘉義縣政府。もともとサトウキビ畑だったところに行政施設が集まり、新幹線の駅も近くにあります。

お会いした林副縣長は、僕が話している日本語をほぼ理解されているご様子。スタッフはにこやかな若い人が多く、和やかで楽しく仕事している雰囲気が伝わってきました。



嘉義縣林副縣長

通訳してくれたのは、嘉義縣議會・黃秘書長のお嬢様。とても優秀で、林副縣長のお話を同時通訳してくれました。林副縣長に会った後、「議場、見ますか？」という言葉にあまえて、隣の建物の縣議會へ。ここで運命的な出会いがあります。秘

書長からいただいたひとつの冊子（写真下部）。内容は、嘉義縣が被災した岩手県岩泉町の小本中学校をまるごと10日間ホームステイに招待した様子をまとめたもの。台湾各地を訪れる生徒の表情やコメント、取り上げられた記事が載っています。そこには学生たちが見覚えのあるTシャツを着ていました。胸に「SUPPORT JAPAN」の文字。目に入った瞬間、体の中にかみ上げてくる嬉しさや興奮。実は、このTシャツはカナダのビクトリアから日系コミュニティのみなさんが被災地支援として送った物のひとつ。昨年カナダ横断した際にゴール地点になったがビクトリア市。（写真下部）

「震災後、日本人の私たちが支援を呼びかけたとき、カナダの人たちが本当に暖かく支えてくれた。どうお礼をしようかと思っていたところに、あなたが代わりにありがとうを伝えてくれた」とまで言ってくれました。

自分の旅の意義をさらに与えて下さった言葉で、モチベーションが尽きない理由。とても思い出入れが強い場所です。



そこから海を越えて送った支援がこうして岩泉へ届いている。小本中学校の生徒は、感謝の気持ちを表すためにそのTシャツを着て台湾へきた。カナダと台湾と日本のつながりが、この一冊につまっていました。はからずもそれを僕は自転車で、巡ってきたので知ることができた。「呼ばれたのかな」って。なんとも言えない喜びが溢れてきたひとときでした。

5月11日

嘉義市政府には朝8時半に伺いました。事前のやりとりの時からすごい歓迎の準備を下さっているようで、実は少し不安がありました。なぜかと言うと、日本では感謝を伝えることをよく思わない人もいて、「頼まれてもいないのに」とか「被災者面するな」「胡散臭い」などと言われる時があります。頼まれてやることでもないし、「一人の日本人として」と言い続け、被災地から来ましたとは一度も言った事はないのですが……。それが頭をよぎり、大きなことになるのは気がひけていました。建物に入ると案の定、まさにイベント。すごいセットが用意されていました。



しかしイベント冒頭、黄市長のスピーチで気持ちは一変します。会場に子供たちが招待されていて、黄市長はこう話しました。「こうして日本人として気持ちを表現したいとやってきた人を嘉義

の子供たちに見せたかった。これは教育にとっても素晴らしいこと。だからみなさんを招待したのですよ」

僕にとって最高の言葉でした。自分のやっている姿が、黄市長と嘉義市の皆さんには伝わっていたのが嬉しかったです。台湾の将来を担う子供たちが大人になった時、「小さい頃、市政府であんな事やったよね～」と覚えてくれればなおさら嬉しいですね。

お昼は、蔡先生の教鞭をとられる呉鳳科技大学の日本語学科へ。学生たちが学内を中心に、震災後に行なったチャリティー活動内容の動画みせてもらうことに。そこには日本の震災のために何かできないかと自分たちで試行錯誤し学生の取り組む姿がありました。純粋で熱い気持ちを持った若者の情熱からしたら、自分の情熱なんてまだまだと思いましたね。



蔡先生（左から4人目）と学生たち

彼らは毎年夏にひと月の間、日本でインターンシップしています。（ちょうど交流の8月号が発行されている時期）次世代を作る学生たちが、キャンパス以外での時間を日本で過ごすのは素晴らしい将来性があると思います。台湾への感謝や将来の日台関係として、台湾の学生をインターンで受け入れる日本企業が増えて欲しいです。

そして夕方は雲林縣政府へ。ここも蔡先生が連絡を取りつけて下さいました。

雲林縣は日本人にとっては、観光名所がほとんどないのでさほどメジャーなところではありません。農業地域です。東日本大震災の時には、支援物資としてキャベツを送られた。

縣政府の建物は近代的。おしゃれなカフェもあります。

農業處呂處長はご兄弟が青森に住んでいた事もあり、東北地域にも思い入れがあると話してくださいました。



農業處呂處長

## 雲林縣の絶品パイナップルケーキ

5月12日

農業中心の雲林縣ですので、おいしいものがあります。雲林縣古坑郷永光村の物産館で試食したパイナップルケーキと珈琲はとてもおいしかったです。

小籠包が有名な台北のあのレストランのパイナップルケーキ(これまた有名)と比べても、ずっとおいしかった。立方体でほそほそ、口の中に入ると水分をもっていかれるような物に比べて、雲林縣のものは細長く食べやすいし、ちょっとしっとりして口に入れたあとパイナップルの香り

が広がりました。古坑郷の周辺は、台湾珈琲で有名なところですよ。日本の皇室に献上された由緒あるもの。一度ほとんど栽培されない段階までいき、近年復活してきた経緯があります。大きなポットからコップで一口飲んだだけですが、とてもおいしい。安宿においてあるクリームと砂糖と一緒にいるインスタントコーヒーばかり飲んでいてを差し引いてもおいしかったです。行った所は”佐日漫遊 餅藝文化館”です。最近出来たところらしく、日本のガイドブックには載っていないかもしれません。車でしかいけないところですよ。

この日は南投市に宿をとりました。各市や縣政府のあるところで、唯一列車の駅がないのが南投市。大きめな町で特に不自由するところはありませんがホテルが少ない。南投縣の観光名所といったら日月潭。日月潭は台湾を代表する名所ですが、南投市は経由地にならないので仕方ないでしょう。それでも見つけた宿は日本語も話せる老夫婦が営んでいて、よかったです。

5月13日

翌日の14日が南投縣政府への訪問でしたので、南投市に滞在していたら楽なのですが、台中市まで行きました。「謝謝台湾」の自転車は走らないと意味がありません。多くの人に見てもらってなんぼ。走る道はあえて自転車道を使わず、車がビュンビュン通るような都市間を結ぶ幹線道路を選択して走っています。

台中では台湾の人の熱さを目撃しました。廣三SOGO前の交差点で信号待ちしていた時、突然目の前の二人がつかみあい始めました。もつれ込み植え込みへ、一人が覆いかぶさるように押さえ込んで、もう一人は踏ん反りかえって……。台湾の国会で激しい主張のぶつけあいをテレビで観ていましたが、まさにそんな様相。2人の乗っていたオートバイはそれぞれ倒れたまま、ハンドルに

ひっかけていたビニール袋から買い物したものがこぼれてしまって……。怪我がなかったらよかったのですが。ヘルメットをしてたから大丈夫かな。台湾の人は“熱い”と一端を目の当たりにした出来事でした。

5月14日

再び南投市まで前日走った道をそっくりそのまま、反対車線を走ります。行きと景色が違うから面白い。背中に見えていた景色はこうだったのかと発見があります。

南投縣では李縣長とご夫人、林秘書長と皆様と楽しく談笑できました。この旅の話や台湾と日本の習慣の違いなど、自分でも改めて考えさせられる話で、以後道中での観察の仕方も変わったぐらいです。この時お茶をいただき、これが本当においしかった。もちろん別の場所でいただいたのもおいしかったのですが、香りがぜんぜん違う。少し花のような香りもあり、飲んだ後の口に広がりました。ふわっと鼻に爽やかに抜けていく。李縣長は「標高が2000M以上の高いところで栽培しているお茶だからとてもおいしいですよ」そして「南投のお茶は一番よ」と縣長夫人。本当おいしくて、ポットに入れさせてもらったぐらいです。



南投縣政府玄関前で李縣長と一緒に

5月15日

彰化市は、某旅行ガイドブックで見開きしか情報が掲載されていない寂しい扱いです。市を一望できる八卦山大仏からの景色は素晴らしいです。午前中から兵役の新しいかたちとして縣政府に勤めている若いスタッフに連れて行ってもらいました。彼らのような若者はたくさんいて、みんな元気。僕を見つけると日本人が物珍しいのか興味津々。中には日本のアイドル「AKB大好き!」と、人気メンバーの名前出して話している人も。日本とは至近距離ですね。AKBもさすが台湾のセブンイレブンのCMやっているだけあります。

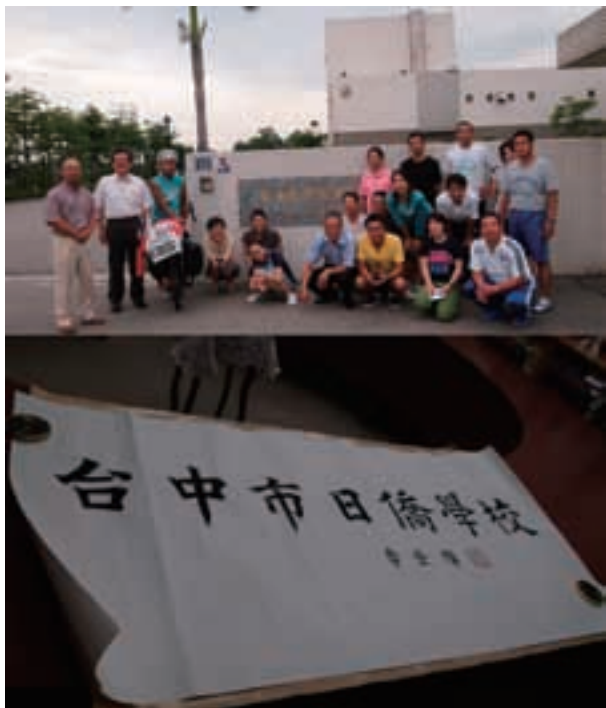


彰化縣政府で賴秘書長との会談は日本のYAHOOニュースになりました

お時間をとってくださった賴秘書長は先生をなさっていたこともある聡明な方でした。通訳してくれた兵役中の若者、周さん。

「日本語最近使ってないので、ちょっと心配です。秘書長はえらい方なので、緊張しています」と、会談前から僕よりも緊張していて、秘書長とお話している間に汗びっしょり。終わった後のほっとした彼の顔が印象に残っています。

## 921 大地震と東日本大震災



台中日本人学校の先生方(上)、李登輝元総統直筆の新しい校名(下)

彰化縣政府を後にし、急いで台中の日本人学校へ。ここに伺う事になったのは、交流協会台北事務所 M 室長のお話がきっかけです。1999 年、台湾を襲った 921 大地震。日本の救援隊がその日中に被災地へ入って活動をはじめたことを台湾の人たちは忘れず、今度は台湾の番だと東日本大震災への支援へつながったと言われます。921 大地震の際、当時の日本人学校も被災。その後すぐに別の場所に日本人学校が再建されることになり、李登輝元総統が直々に校名を書かれた。台湾と日本の関係の深さの象徴的なところでしたので、是非伺いたかったのです。台中縣から台中市になったということで、李登輝元総統が改めて書かれたものも、校長先生がわざわざ見せて下さいました。教頭先生からは、「震災後、台中市でも慰霊の催しが行われ、市政府前で市長はじめみなさんが雨の中、何分もの黙祷をささげて下さった。その日は絶えず人が訪れ、祈りをささげてくれたんです」感動的なエピソードをうかがいました。

5 月 16 日

民間の人にもメッセージを書いてもらおうと、新光三越台中中港店へ行ってみました。個人的な話ですが、2 年前まで新宿伊勢丹で 4 年近く働いていて、その時伊勢丹は三越と同じ会社になった。だから三越には親近感もあり、台湾の三越から東北の仙台三越へメッセージを書いてもらおうと、思ったのです。アポなしで訪ね、ちょっと変わった日本人が受付で粘って話しているんで怪しまれそうでしたが、日本語が話せるスタッフの方に、「安部良 台湾」とネットで検索してくれれば、新聞記事が出てきます。僕のやろうとしている事がわかっていただけだと思います」とむちゃくちゃなお願いをして、メッセージ書いていただきました。宛先は、仙台三越にご来店のお客様と従業員のみなさまにしました。

その直後、台中市政府へ。市政府の建物は、近代的で建築としても斬新でカッコいい。その中のきれいな応接間に通され、雨の中走ってきた自転車で恐縮しました。台湾と日本の両国旗も飾られ、会談の様子がそのまま記者へのプレゼンテーションになり、少し緊張。でも蔡副市長とスタッフのみなさんにお気遣いいただき、前日に日本人学校で伺った話もでき、とても有意義な会談になりました。自転車を漕いでる時に小腹が空いたら



蔡副市長 (中央) PINCKY さん (左)

ちょうどいいと台中市強力推薦の太陽餅もいただきました。最後に副市長が、台中にお住まいで世界を自転車で回った経験をお持ちの PINCKY さんを紹介して下さいました。

実は乗っている自転車は GIANT 社製。Made in TAIWAN のステッカーがはってあります。台中市には GIANT の本社がありました。お礼に伺えず。心残りになっています。

5月17日

メッセージを被災自治体へ送るポストカードは、送る地域の特色がでるように、地域にちなんだデザインのものを選んでいきます。しかし苗栗縣には見つからず困っていました。いつも書店で探しますが、カルフル内の書店ではポストカードが置いてなかった。縣政府に伺う直前、駅にある観光案内所へ行ってみたらポストカードが見つかりました。なんとか間に合わせました。苗栗縣政府でお会いしてくださった民政處張處長にこの話をしたら、「ここにもたくさんあります。用意して待っていましたよ」とにこにこしながら、6枚組を3セット。そうだったんですか〜と僕。豪快な笑いが印象的だった張處長。他にもみなさんスマートフォンを使って YOUTUBE で僕のカナダ横断の動画を見てくださっていたり、楽しい苗栗



張處長と民政處の皆様

縣でした。ちなみにユースホステルが駅そばにあります。ホステル協会加盟直後で、会員証を利用した宿泊は僕が第一号でした。

5月18日

新竹市政府の建物は明治時代に立てられた建築。ドラマの撮影などで使えそうなところ。日本建築が今でも大切に使われているのは、ありがたいことです。お会いした游副市長からは、ご不在であった許市長からのお手紙を受け取りました。日本に向けてのエールが書かれていたので紹介致します。

「台湾と日本は昔から国や民間の交流がとても頻繁で、親友だと思い、もしも友達が困ったときには必ず助け合って、一緒に困難を乗り越えるべきだと思っております。皆様、希望、勇気、そして何よりも私達は永遠にあなた達のそばにいるから、一緒に輝く未来へゆこう、頑張りましょう」



游副市長とご一緒に

その日の午後は新竹市のお隣、竹北市にある新竹縣政府へ伺いました。新竹縣では2013年にランタン祭りが行われるので、東北へ送ったメッセージもその招待カードになりました。このラン

タン祭りには、青森のねぶたも登場する予定。新竹縣は島根県とも縁が深く、応接間にはゲゲゲの鬼太郎の”ねずみおとこ”の人形が飾ってありました。



新竹縣でお会いして下さった徐秘書長

5月19日

苗栗市から桃園市までの移動は、あっという間です。桃園市には、大きな街で宿探しに苦労はしないだろうと予想していました。しかし、予算が合わない。見つけたと思ったら、天井からぼたぼたしずくがたれている。しかも暑い。蒸し暑い環境では、体を壊してしまうだろうと懸念し断念したところもありました。毎日宿探しはしましたが、ちょうどいい宿を見つけやすい街のサイズというのがあります。

午後になると激しい雨が降るここ数日。この日も夕方からは雨で、どんどん強くなっていくので部屋にこもっていました。帰国便が次の金曜日(5月25日)の午後。週明け21日の月曜日から、予定がみっちりなので、最後の週のスケジュールを確認や訪問先のための準備、自転車で走るコースの選定、そして遅れ気味のブログを久しぶりに更新。それでも旅を通して全く追いつかなかったのが、各地でどうゆう報道がなされたのか。逐一台北事務所のYさんが、リストをメールで送ってくださっていましたが、ほとんどチェックでき

ませんでした。

5月20日

この旅で一番動きが少なかった日がこの日。雨があがった午後2時ごろに遅めの昼食。桃園駅前のデパート地下へ。働いていた経験があるデパートはやはりに気になります。客入り、レイアウト、置いてある商品など見てしまいます。台湾のデパートは日系資本も入っているところが多く、お店の作り方は日本に似ています。一番の目当てはパンの購入。台湾のパンはどこでもおいしいのは、1周してきてわかりました。高雄には世界コンテストでグランプリをとった職人のお店もあります。日本のベーカリーチェーンのお店も多くあります。鮭フレークの入ったパンなど日本にない商品もありますが、あんぱんなど馴染みのものも売っています。

5月21日

訪問先の自治体との連絡は、日本語の場合が多く、北京語だと日本語で返信。たまに英語でやりとりしてしていました。桃園縣は英語でメールをしていて、そのことで英語がペラペラだと思われてしまいました。そんなにフォーマルなお話は英語でできないので、直前に日本語話せる人を探し出してもらいながらも、無事に蔡副秘書長と会うことができました。どこでもそうなんですけど桃園縣でも若いスタッフは、自転車で台湾を1周している日本人に興味があるみたいで「こんな荷物が少なくて大丈夫なの？パソコンも持ってるの？」と自転車を見て驚いていました。

市政府の建物が高層ビルの新北市では、秘書處国際事務科柯科長が展望台からの景色を見せてくださいました。台北101はもちろん、周辺の山に囲まれた台北と新北市の大都市圏が一望できる。観光スポットにもほとんど行かない旅。

いいところは出会った人から教えていただきます。そうしてご当地の情報を知れるのは、こうゆ





蔡副秘書長と桃園縣政府玄関前で

う旅の醍醐味です。

新宿にも新宿御苑と渋谷まで一望できる穴場の大手ハンバーガーチェーン店がありますが、新北市政府の展望台はそんなところでした。

5月22日

台北市は最後に訪問するのが理想的でしたが、スケジュールの都合で22日になりました。倪副秘書長は、東北大学に留学されていて日本語もお上手。在学中にも地震を経験し、仙台や東北へ特別な思いをお持ちでした。大地震を経験されている話は周りのスタッフの方も知らなかったみたいで、みなさん目を丸くしていました。



倪副秘書長（左）とご一緒に

各地でいつも安全な場所に自転車を置かせてもらっていたのですが、台北市政府で地下の警察官の詰め所の隅に置いた時、女性警官から、「あっ、あなたのことを知ってる！」と言われました。どのように知ったのか詳しく聞けませんでした。噂が広まっていたようです。

この後、基隆市へ向かいます。1周し始めたときと全く同じ道を走りましたが、また新しい出会いがありました。基隆へ最後のトンネルを出たところで、道端から手招きされ、近所同士が集まっているティータイムにお呼ばれしました。旅って本当に面白い。もう一度台湾1周したら、また別のストーリーになるんですよね。

## 台北へ戻り、1周達成

5月23日

基隆港からは、貨物船や客船も出ており、物流面からも日本に近いところ。実際に帰国前、船便で送った荷物は基隆港から川崎港を経てさいたま市まで届きました。基隆市交通旅遊處蔡科長とお会いし19番目最後の訪問地を終えて、後は無事に台北に戻るのみという心境。

基隆港の前を通りかかると、いきなりカメラに囲まれます。言葉がわからず英語と漢字筆談でがんばっていると、その場に日本語が上手な女性が。「高雄に住んでたんだけど、子供が台北の学校に通うので引越して、それからずっとこのあたりに住んでるのよ。あなたに会えてついてるわ。私の事はたまちゃんって覚えていてね」って。出会いにはさまざまがちで恵まれていました。この時一番ラッキーだったのはテレビの記者たちかもしれませんね。これがニュースになり、翌日台北市内でテレビみたよ〜って声をかけられました。たまちゃんも出ていたニュース映像はYOUTUBEで見られます。

これが台湾ではツーリングの実質最後。台湾本

島の北端の海岸線沿いから淡水を經由し台北へ入って行きました。台北市内に入り承德路四段あたりで、バイク二人乗りのカップルに声をかけられました。「私達、結婚したの」って、お菓子の入ったかわいい巾着袋をくれました。結婚の報告をするのにバイクで友人を周っていたところにたまたま僕がいた。その道をその時走ってきた人と出会える偶然。なかでも特に嬉しい偶然。おめでたい二人の新しい門出のタイミングと重なり、幸せを少し分けてもらった気分。19の自治体を訪問して無事に台北に戻って来られた事に、二人が花を添えてくれたのだと思います。

5月24日

交流協会台北事務所でゴールイベントを催してくださいました。少し裏話をする、10分くらい前にこっそり交流協会の玄関前の様子を見たら、2~3人ぐらいしか見えなかった。小さな感じだなと思って入ったんです。そうしたら何十人も玄関前で迎えてくださり、びっくり。(写真)



大事な事は、僕のゴールうんぬんではなく「台湾からのエールは日本に届いています。今でも忘れていません。ありがとう台湾。」のメッセージを伝える事。

東日本大震災後、日本へ贈られた世界中からの支援は、そのひとり一人、想いのこもった支援です。日本への善意の気持ちで贈って下さった。小

さな思いが集まって大きくなり届けられたもの。日本人が自転車で「謝謝」と走っているのを見たら、きっと喜んでくれるはず。

交流協会には台湾中から送られた日本へのメッセージが壁全面に貼られています。また日本から感謝を伝えるのに、台湾に桜を植樹した方、沖縄から宜蘭縣へ泳いでこられた方、独自に謝恩活動された方もたくさんいる。台湾との窓口になっている台北事務所で、日本からの「ありがとう」を改めて発信することができ、お役に立てたのが嬉しかったです。

台湾最後の夜、ほっとする暇もなく、個人的なエアメールを書いていた。日本とこれまで走ってきたカナダ、ニュージーランドでお世話になった人に宛てて40通近く送りました。メールやフェイスブックでやりとりも出来る方が多いのですが、それでも自分の気持ちを直筆で文字にすることにこだわります。一期一会かもしれないけど、その出会いがあって今の自分がある感謝をあたりにしたい。それに人の手を伝わって何日もかけて1枚のハガキが届くことは素敵な事。もちろん日本からも送りますが、旅先から送ることを大切にしています。「台湾から書いています。お世話になった事を忘れていません」という思いを込めたいから。

5月25日

最後の松山空港まではタクシー。思えば初めて台湾の人とコミュニケーションとったのが、到着した日、松山空港から乗ったタクシーの運転手さんでした。それからずっと北京語はできないまま、筆談が随分板についてきました。しかも筆談中「これ通じるかな？大丈夫？」日本語で独り言っぽく話しながら。腹をくくり過ぎと思われるかもしれませんが、そうして台湾を回ってきた。”あきらめず伝える。そうすれば伝わる”。結局「ニーハオ、シェシェ、チャーハン」以外で覚えた言葉

は、「ドヤ〜」「ライ、ライ」ぐらいです。それでも台湾の人たちの優しさにあまえながら楽しくコミュニケーションをとってきました。今回のドライバー陳さんにも、漢字筆談と相槌で意思疎通。自分の掲載された新聞記事を見せたり、自転車ですべて周ってきた目的を伝えました。そうしたら「(日本への支援)台湾ナンバーワン！」って陳さん。台湾の人たちも、日本への支援を自分たちの誇りと思っているのだと改めて感じました。

台北は数日間ずっと晴れていて、最後の日もいい天気。最後の台北のドライブを楽しみました。松山空港からの帰り NH1188 便、左窓際の席から台北の街をみながら「素晴らしい出会いばかりで、そのひとつを噛み締める暇もなく、次々と出会い、出来事が連続する濃密な毎日。あっという間の31日間だったなあ」。ジーンとしながら機体は高度をさらにあげ、進路を北東にとっていきました。

## 日本人であることを胸に

ありがとうの旅を重ねるに連れて、「世界から尊敬される日本人。誇れる国“日本”でありたい」と思いを強くしています。震災後の日本人としての礼儀を表すだけでなく、自分の国への愛情をさらに深める旅でもありました。

自転車で走っている最中に、何も言わずに車からスマートフォンで写真を撮る人がたくさんいました。その人たちはきっと「こんな日本人がいたよ、ほらみてごらん」と家族や友人へ見せていたと思います。そこでは安部良がやっていることではなく、日本人がやっていることとして、知ってもらえたはず。日本人の姿勢や礼儀が残せたら本望です。

日本人が自信を失いかけていられると言われます。日本人は日本の事を批判すると天下一品だという人もいます。今日本国内は新しい事を起こす雰囲気よりも、現状維持の中でなんとか配分を得よう



1 周の GPS データ。雲林あたりが抜けていますが飛行機や自動車には乗ったりはしてません (笑)

という内向きな雰囲気をもっと強く感じます。一方で世界は、震災という辛い経験を強いられた日本がこの先どうしていくのか見ている。海外に出れば、誰でも日本代表です。僕がやっているのは、全財産を積んだ自転車で、雨、風や暑さ寒さに少し耐えながら走るだけのシンプルな事。そこで得たのは、日本のためにも、台湾のためにも、自分磨きにもなった素晴らしい経験。どうしても現状維持が楽なので、新しい事への向かうのを敬遠しがちになる。でもそんな時ではない。僕もいろんな偶然が重なり、未経験から自転車で海外を 13000KM 以上走る事になった。1 年の平均的な自家用車の走行距離を上回るくらい。伝えたいのは「さあ自転車で世界を旅しよう」ではなく、「守るのではなくチャレンジしよう」ポジティブなエネルギーがもっと大きくなれば日本の活力になっていくはず。この旅が誰かのチャレンジのきっかけや勇気の一部になれば嬉しいし、そう願っています。

そして今回は、東日本大震災という切り口から、台湾における日本との関係の一端を、歴史・文化

などから、  
自分の手足で行き、目でみて触れて、紐解いていく旅でもありました。良書を何百冊、何千冊、読破した分に匹敵するような経験値です。これからこの経験を、学生や社会人など多くの人に伝えて

いきたいです。

みなさんのチカラやご縁で、台湾に大きなひとつの輪が描けた事に感謝しています。本当にありがとうございます。次はアメリカ西海岸？！

安部 良 (あんべ りょう)

1981年埼玉県生まれ 成蹊大学卒業

金融先物取引、新宿伊勢丹、損保ジャパンで営業や接客を経験。

2011年東日本大震災後、日本人として「顔の見えるカタチで、世界に感謝を伝えたい」と単独自転車の旅は行く先々で感動と共感をよんでいる。はじめて1年、走行距離は13000KM以上に及ぶ。

マラソンが趣味のひとつで現在7回完走している。

mail : modena300k@yahoo.co.jp